隔月開催 無料オンライン講座

本法人では、「新聞をつかった『やさしい日本語』研究会」によるオンライン講座を隔月で開催しています。詳細はホームページの「お知らせ」にて随時掲載していますので、そちらから申し込みをお願いします。（当研究会は24年8月に兵庫県NIE推進協議会内に設置されましたが、26年4月より当協会に移設いたしました。）外国にルーツを持つ子どもたちと共に学ぶ教育環境作りを支援し、多文化共生社会の基盤づくりに取り組みます。

法人ホームページ随時更新中

兵庫県が生んだNIEの申し子2人がタッグを組んだ！

メディア教育協会NIEs2.0

神戸で誕生

福田浩三代表理事
元公立高校教師・元大学職員

三好正文理事
元神戸新聞記者、元兵庫県NIE推進協議会事務局長

NIE（教育に新聞を）実践をベースに、SNS（交流サイト）や生成AI（人工知能）など多様なメディアの活用法を対象にした「一般社団法人メディア教育協会NIEs2.0」が今春、神戸で産声をあげた。2025年夏、「NIE全国大会神戸大会」が開かれた地から、NIEの新たな可能性を探っていきたい。

代表理事の福田浩三は今春まで兵庫県立高校などで教師を務め、多文化共生への橋がけとして、「やさしい日本語」や「はがき新聞」をNIE授業に取り入れてきた。日本新聞協会のNIEアドバイザーも務めた。理事の三好正文は元神戸新聞記者で、昨年秋まで兵庫県NIE推進協議会事務局長を務め、県内外で年間100を超える出前授業・講義・講演を続けてきた。

新聞の未来をどう描くか、AIとどうわたり合うか、SNS一強時代の主権者教育や、新聞を使ったSteam教育の進め方は――。すべてが喫緊の課題だ。元教師と元記者、どんな化学反応が起きるか、活動はまだ一歩を踏み出したばかりである。

出前授業や講義

11校・団体で実施

本協会の活動の柱のひとつは、兵庫県内外の教育現場などでの出前授業・講義だ。神戸新聞記者40年、NIEにかかわって10数年の体験を生かし、理事の三好正文がおこなう出前授業・講義は今年4月の活動開始から11校・団体、計13回を数える。オンラインでもおこない、全国から申し込みを受け付けている。

これまでおこなった出前授業は、小学校では「水と京都」をテーマに新聞をつくる。中学校では、長崎への修学旅行を前にした平和学習や、野外活動やSDGsの体験を新聞にまとめる、友達とインタビューし合って新聞をつくる――など。中学教員に「簡単に取り組めるNIE実践例」を紹介する講座もおこなった。

大学では、新聞・情報の読み解き方や新聞をつかった小論文の書き方、新聞部の新入部員向けの取材の仕方に関する講座や、海外留学生向けの防災・減災講座をおこなった。

本協会が目指すのは、「新聞を教える」のではなく、SNS・AI時代に情報を正しく読み解き、児童・生徒の「生きる力」をはぐくむ授業だ。出前授業・講演の記事はすべて本協会ホームページの「ブログ」にアップしているので、ご一読ください。

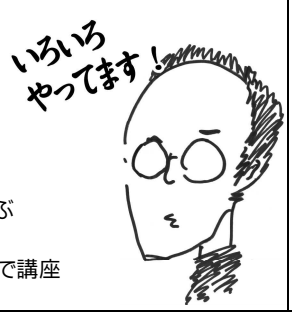
「水と京都」をテーマにした新聞づくりを学ぶ児童たち＝2026年6月29日、京都市伏見区深草田谷町、京都聖母学院小学校

災害時の対応について海外留学生から話を聞く三好理事＝2026年5月12日、大阪府柏原市旭ケ丘4、大阪教育大学柏原キャンパス

インタビュー取材で話を聞いたり、写真を撮影したりする生徒たち＝2026年6月1日、兵庫県西宮市宮前町3、浜脇中学校

メディア教育協会NIEs2.0 これまでの活動

3月28日　大阪はがき新聞研究会 実践報告
4月20日　【寄稿】「2050年 未来新聞」を作ろう～NIEがつなぐ思考と共生への問い～
4月30日　加古川・浜の宮中3年生 長崎への修学旅行前に平和学習
5月11日　野外活動の体験、新聞に 神戸・塩屋中で出前授業
5月12日　防災テーマに、大阪教育大で出前講義 海外留学生13人が受講
5月19日　【寄稿】NIE神戸大会を機に交流広がる 兵庫と鹿児島の小学校
5月20日　新聞・情報の読み解き方は 大切な「なぜ」 甲南女子大で出前講座
5月21日　「農」を通じたSDGs体験 取材や新聞製作のノウハウ学ぶ 神戸・滝川中1年
5月25日　日本NIE学会誌 論文「高等学校における学年通信の教育的効果の調査研究」発表
6月 2日　インタビュー取材のこつ学ぶ 西宮・浜脇中生が「友達新聞」づくり
6月 5日　取材から紙面整理まで 関学大新聞総部で出前講座 新入部員ら25人参加
6月 7日　【寄稿】メディアの未来を模索～対話でつなぐ、いままでとこれから～
6月27日　ベテランが伝えるNIE入門 大阪でセミナー（取材）
6月29日　「水と京都」テーマに新聞づくり 京都聖母学院小4年 出前授業でノウハウ学ぶ
7月 4日　多文化共生への橋がけ 拓殖大学にて代表理事が学会発表
7月 7日　岡山の高校で大学・専門学校進学指導
7月 8日　代表理事 県立高校で文学を語る
7月 9日　神港学園で未来の自分をデザイン
7月10日　分野別説明に参加 語学国際関係学を語る
7月13日　シニア記者、魚の棚商店街で取材して新聞作り 明石
7月13日　神港学園で職業人講話 教育という名の人生を語る
7月14日　神戸第一高校で進路講話
7月15日　神崎高校で就職指導 生徒が自らの表現について学ぶ
7月17日　楽しみながらNIE 尼崎・南武庫之荘中で教員研修
7月23日　新聞の社説を題材に小論文、どう書く 神戸・流科大で講座



教育と研究 本法人の二本柱

多文化共生と「やさしい日本語」活用

代表理事、学会で提言

日本国際理解教育学会による第35回研究大会が7月4日、拓殖大学文教キャンパス（東京）で行われ、午前中に11の分科会に分かれて70を越える研究・実践の発表が行われた。

本協会代表理事の福田浩三は『多文化共生への橋がけ―はがき新聞を用いた「やさしい日本語」の学習―』について発表した。

福田は初めの20分で、日本の高校生における「はがき新聞」を用いた「やさしい日本語」の学習法について実践報告を行った。報告では、兵庫県の日本語教育の必要な児童・生徒の増加や、それに伴う夜間中学校、高校入試の外国籍特別枠にも触れながら、外国人と日本人のコミュニティーの形成における「やさしい日本語」の必要性について説いた。そしてその学習に「はがき新聞」（決められたサイズの用紙に相手意識を持った「新聞」として書くという取り組み）が効果的であることを示す実践例を紹介した。実践例は新聞記事による「読み解く力」、「はがき新聞」による「まとめる力」、「やさしい日本語」による「多文化共生」といった3つのポイントが重なる効果を示すものであり、本協会設立のきっかけともなった取り組みである。発表の締めくくりでは、実践に参加した生徒が「自分たちのつたない英語より、日本語の方が在留外国人の方々には伝わるんだという事が分かった」という感想とともに、「言葉にかかわらず、どの様にすれば、より相手に伝わるかを場面ごとに考えていくことこそが大切である」と締めくくった。

10分間の質疑応答では、複数の質問が寄せられた。「やさしい日本語」の学習において特に重点を置くのはどこかの問いには、「文法的なところではなく、どうすればより良く相手に伝わるかを重視している」と返答。また、今後の展望についての問いには、「学会を含む様々なところで発表・実践報告を行いながら、共同研究先を模索している」旨を述べた。

学会は午後も行われ、総会・シンポジウム・特定課題研究・情報交換会が行われた。

論文発表「学年通信」教育効果の調査

日本NIE学会誌掲載

本協会代表理事の福田浩三が14年間を費やした、校内発行通信の教育的効果をテーマとする論文が、令和8年発行の日本NIE学会論文誌に掲載された。本論文は兵庫県内の公立高校にて23年度入学生とその保護者に計2回実施した学年通信のアンケート結果をまとめたものである。対象となった「学年通信」は、新聞風のレイアウトや四コマ漫画、写真記事、人権・情報モラルに関するコラムなどを含む独自性の高い通信で、毎週発行されていた。

調査では、学年通信の受け渡し状況、閲読頻度、紙媒体とデジタル版の利用状況、親子間の会話への影響、記事内容への興味関心などについて分析した。その結果、生徒・保護者ともに8割以上が「必ず読む」「だいたい読む」と回答し、高い閲読率が確認された。特に保護者については、学校連絡ツールによるデジタル配信開始後、閲読率がさらに向上した。保護者の半数以上がスマートフォン等でデジタル版を閲読しており、「どこでも読める」という利便性が高く評価された。一方、紙媒体については「読みやすい」「一覧性が高い」といった利点が支持された。

調査対象の週刊学年通信

一般社団法人

新聞をはじめとする多様なメディアを教育に活用し、情報より「読む力」「考える力」「伝える力」を育むことを目的とした団体です。私たちは兵庫県神戸市を拠点に、従来のNIE（教育に新聞を）の枠にとらわれず、デジタルメディアを含むあらゆる媒体を教材として捉え、学校教育と社会教育の双方から、メディアリテラシー・多文化共生・人権について学び合う場をつくります。

紙面から

6 神戸で誕生メディア教育協会
5 出前授業や講義11校団体実施
4 NIEs2・0これまでの活動
3 隔月開催無料オンライン講座
2 多文化共生「やさしい日本語」
1 論文発表通信教育効果の調査

講演依頼

『想い』がもっと
伝わるように…

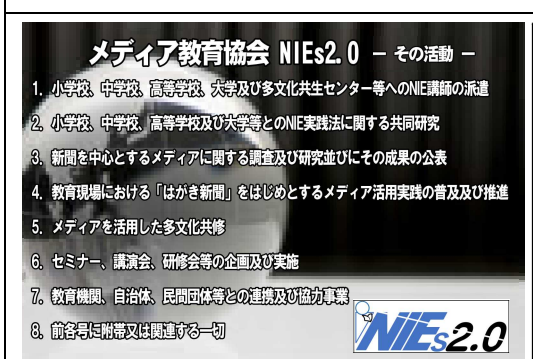
本協会への講演・出前授業の依頼、その他各種お問い合わせは、ホームページの『依頼・お問い合わせ』タブよりお願いします。

https://nies20.jp

法人公認キャラクター まくら君

― 法人ロゴについて ―

左上の青い丸と三角は新聞を広げている人を表す。新聞はハートの形に近く、人の視線は法人の英数字を貫き、遠か先を見つめている。



広島国際会議場
地下2階「サクラ」にて
26年7月30日（木）・31日（金）